

C-20 南蛮服飾が日本衣服に与えたボタンの影響について

埼玉大教育 丹野郁 大妻女大家政 ○石井とめ子 天立女大家政 豊平
一恵

目的 16世紀後半、南蛮船の渡来はわが國に種々の文化をもたらし、日本服飾の面でも、西洋の文化を積極的に取り入れ、日本衣服を部分的に変形させるなど、欧風化をまねいた。それは西洋の機能性、異國調に訴ふる憧れと模倣の結果であった。とりわけ、その顕著な例として、それまで日本では知られていなかったボタンが導入された。ボタンの装飾性、機能性が日本の衣服にどのような影響を与えたか、遺品、文献などによって考察する。

方法 わが國に現存している南蛮服の影響を受けたとと思われる衣服をとりあげ、その材質、用ひ方、ボタンホールなどを調査し、それらの祖形とみられるポルトガルの遺品調査や文献との照合によって比較検討した。

結果 南蛮服を媒介として取り入れられたボタンは、すぐれた機能性によって日本に取り入れられ、それまでの紐結びに代わって、日本衣服のとめ具の一つに加わった。ボタン穴かぶり、面取にはじまるといわれるが、それが導入された初期のものにはかぶりやに後解的蓄心の跡がうかがわれ、時間的経過と共に工夫がみられる。東西両洋を問わず衣服におけるボタンの功用はいうまでもなく、種々の文化的要素を含んでいる。